



- 経済地理学
- 経済立地論Ⅱ
- 外書講読Ⅱ

北條 勇作 教授

【ほうじょう ゆうさく】

1947年生まれ。早稲田大学大学院経済学研究科理論経済学・経済史専攻修士課程修了、青山学院大学大学院経済学研究科経済政策専攻博士課程単位取得。学術博士[論博(新潟大学)]。高崎経済大学講師・助教授を経て現在同大学教授。著書に、『シュムペーター経済学の研究』、『経済地理学』、『経済学の一方向』がある。

私の研究課題・分野、 担当科目及びゼミの内容

私は、新入生がこれからの学生時代の勉学に際し少しでも参考になればと思い、自身の研究テーマおよび担当科目ならびにゼミの内容について、ここで簡単に述べてみたいと思う。

研究テーマ 私の研究は、シュムペーターの経済発展の理論(特に革新の理論)などを、レッシュの立地の一般均衡理論(空間における一般均衡の理論)さらに彼の経済地域の理論(彼の中心地理論を含む)の中へ導入すること——後者を前者へ導入すると見なしてもよい——にある。なおその際、クリスタラーの中心地学説も大いに利用・活用する。当研究を遂行することによって、空間の概念の入った静態理論を動学化することが可能になる。

付言すると、中心地理論は、中心地点およびその補完区域から成る結節地域・市場圏の垂直的集合について論じたものであり、具体的には、各上位市場圏は、すぐ下位の市場圏をいくつか含む階層的配列を示しているという学説のことで、その貢献者として最も有名なのが、クリスタラーとレッシュの2人である。クリスタラーは当該理論の詳細な体系的論述を行い(南ドイツの事例研究も行う)、レッシュは彼より精緻な叙述を展開した。

担当科目 私は経済地理学、経済立地論が専攻なので、現在担当している科目は、経済地理学、経済立地論Ⅰ・Ⅱ(両科目は隔年の開講である)、演習Ⅱ、外書講読Ⅱ(専攻科目に関連した英語圏の文献を読む)である。

ゼミの内容 ゼミ(経済地理学)では、クリスタラーの静学・動学両面における中心地点の体系、レッシュの立地の一般均衡理論(立地の均衡)・経済地域の理論などを中心に勉強する。このように中心地理論を主に、経済地理学、経済立地論全般の内容について学んでいる。この他に卒論指導も行う。卒論提出は、1月のゼミの時間で、全員に義務付けている。なおゼミでは、輪番制の発表システムを採用している。

さらに本ゼミでは、地域研究の視点も含めて、理論・応用・事例研究を目的として、ゼミ旅行(合宿)を年に少なくとも1回は行うことにしている。

私たちのゼミではクリスタラーの著書を元に、都市の立地や発展について勉強しています。毎週代表者1人がレジュメの制作、発表をして、それに対し意見を挙げていくという形式の中授業を進めています。そしてわからない箇所、疑問に思った点を教授に質問をし、答えていただくという、教授と学生が一体となって授業をすすめています。また、新歓コンパや合宿などで各学年の垣根を越え、交流を深めています。

2012年卒 佐復 恵介

ゼミ生のひとこと

